

②—豊かな市民生活の実現

2. 市民文化の環境づくり

●市民文化創造の担い手

都市における文化は市民のさまざまな活動、多様な市民のふれあいのなかから形づくられてくる。それは都市を舞台にした芸術創造活動から市民の日常的な文化活動、さらには都市におけるアメニティ（魅力と快適さ）づくりまで及ぶ幅広いものとして考えられる。

都市文化の創（つく）り手、受け手はいずれも一部の市民ではなく全体の市民である。地域における趣味、教養、学習などの日常的な活動を基礎に、その積み上げのなから市民の手による芸術の鑑賞、創造などの活動へと広がっていき、新しい市民文化がつくり出されてくるだろう。

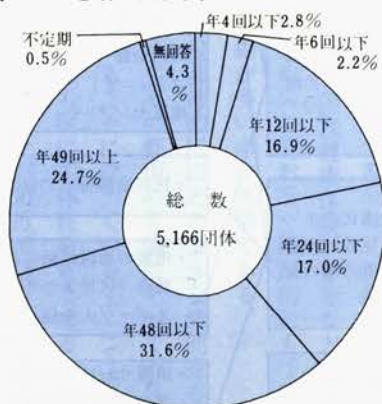
横浜市立大学の市民文化研究センターの調査でも市内で五〇〇〇をこえる文化関係の団体が把握されており、学校や公共施設などを利用して活発な活動を行っていることがわかる（図―1）。こうした活動をさらに活発化させていくことが重要であろう。

また、都市文化を創造していくうえで民間のエネルギーに負う部分も今後ますます

大きくなろう。カルチャーセンターなどの形で市民への学習機会の提供が企業活動として広く行われている。また、企業の手による美術館・博物館づくり、シンポジウムの開催、財団などを通じた文化活動の助成など「企業の文化化」といわれる現象もみられるようになっていく。

市民の文化活動を推進するために果たすべき行政の役割も大きい。その中心となるものは文化活動のための基盤の形成を図ることと市民の活動のきっかけづくりであろう。これまでも横浜市は教育文化センター、図書館などの文化施設や、公会堂、地区センターなどのコミュニティ施設の建設により市民の活動の場を広げるとともに、学習、

図―1 地域の文化団体の活動状況



〔資料〕市立大学「市民文化団体調査」(1981.12月現在)

表-1 横浜もののはじめ (一部掲載)

1856 (安政6・9・□)	中川屋徳三郎が本町3丁目で牛肉を販売した。
1862 (文久2・5・1)	洲千弁天裏海岸で近代競馬が開催された。
1862 (文久2・7・□)	下岡蓮杖が弁天通り2丁目で写真屋を開業した。
1863 (文久3・□・□)	イギリス人スミスが海岸通り5番にクラブを建て、ホテルを営業した。
1865 (慶応元・9・下旬)	横浜製鉄所が横浜本村に開業した。
1866 (慶応2・8・□)	前田留吉が太田町8丁目に牛乳屋を開業した。
1867 (慶応3・6・□)	ヘボンが「和英語林集成」を出版した。
1868 (明治元・閏4・□)	横浜の運上所で日曜休日を始めた。
1869 (明治2・6・□)	町田房造が馬車道常盤町5丁目に氷水屋を開店し、氷やアイスクリームを売り出した。
1869 (明治2・11・□)	ブランドンが設計したかねの橋 (吉田橋) が竣工した。
1869 (明治2・□・□)	コーブランドが山手天沼にビール工場を建ててビールを醸造した。
1870・1・26 (明治2・12・25)	ギルバードが横浜一築地間に電信を架設した。
1870・11・7 (明治3・閏10・14)	蘭人ヘフトが本町通り68番にゲート座を建て、開場した。
1872・6・8 (明治5・5・3)	横浜一品川間の鉄道が仮開通した。
1873 (明治6・4・□)	堤磯右衛門が三吉町河岸に石けん製造所を設け、石けんを製造した。
1874 (明治7・□・□)	菊林林蔵が三吉村でマッチを製造した。
1880 (明治13・□・□)	西川虎吉が日ノ出町で西洋楽器の製作を始めた。
1886 (明治19・11・3)	横浜アマチュアクラブと東京帝国大学の学生との間で国際ボートレースが行われた。
1887 (明治20・10・17)	パーマーの敷設した近代水道が完成し、野毛山貯水池から給水が始まった。
1911 (明治44・10・□)	吉田橋を鉄筋コンクリート橋に改造した。

(資料)「横浜もののはじめ」(昭和55年)

文化芸術観賞の機会を提供するなど市民の活動の活発化を図ってきた。今後もこのような努力を続けていくとともに、文化活動の面における民間企業の活力を効果的に誘導するなどの方法により、都市のなかに文化活動の場や文化的催しなどの蓄積を進め、文化環境を充実していく必要がある。

● 都市空間における文化性

都市づくりのなかに文化的要素をとり入

れていくことは快適な都市生活を送るうえで重要である。また、その実現も市民全体の努力にかかっている。自然や都市的景観、歴史的、文化的資産を街づくりのなかに生かし、都市の魅力の要素としていくことによって都市空間に高い文化性を付与していくことが可能になるだろう。

とくに歴史的資産は市民に精神的なよりどころを与えるとともに、将来に向かって創造性を呼びおこす貴重な資産である。イギリスで起こり各地に広がっている市民

による歴史、自然資産の保全運動は、地域文化の創造のための市民運動の一つとして注目される。横浜市民の手による山手外人墓地の保存運動もこのような活動の一例である。

横浜は近代産業のふるさとでもある。その歴史的発展を示す史蹟・資産について関連企業の力によって保全、活用を図ることも必要であろう。